

年頭のごあいさつ



美浦村長
中島 栄

新年 明けましておめでとうございます。

平成二十六年の新春をお健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。本年も「人と自然が輝くまち・美浦」の村政運営の先頭に立ち、執行部と村議会の総合力を活かし、長い歴史が育んできた美浦の文化を守りながら、皆さまと共に歩んでまいりたいと存じます。

さて、昨今の国際情勢に目を向けますと、一昨年から続く中東シリアの内戦も混迷を極め、我が国を含めた東アジアでも国際間の緊張が高まっています。尖閣諸島・竹島の領有権問題を発端として、他国による領海への侵入や事前協議無しの防空識別圏設定、また、歴史認識や外交に関する問題が常態化しており、こうしたトラブルは当事国のみならず世界経済にも悪影響を及ぼすことが懸念されます。世界の国々が平和な社会を目指して輝きを増していこうとする中、アイソン彗星のように消滅してしまうような事態は回避せねばなりません。国内では、東日本大震災で発生した福島第一原発の事故から約二年十月月が経ちましたが、放射能に係る懸念は未だ収束せず、復旧・復興も道半ばです。原発からの避難者のうち約二十九万人が未だ帰還できず、避難生活を余儀なくされています。復興庁には支援策を迅速に進めていただきたいと思えます。経済においては、一昨年の政権交代により、アベノミクス効果もあつて株価の上昇・円安が進み、都市部や輸出産業を中心に大企業の業績は改善されてき

ています。しかしながら、その景況感は地方や中小事業者にまで及んでいる状況になく、先行きには不透明さも残ります。このような中、二〇二〇年のオリンピック開催地が東京に決定するという明るい話題がありました。景気が腰折れせず、緩やかな成長を維持できるものと期待しています。

また、年末には特定秘密保護法が成立しましたが、安倍首相は「国民への説明不足を反省している」と語っています。国民の懸念を払しょくするためにも、今後の丁寧な説明を望みます。

昨年十月十六日、関東地方に接近・上陸した台風としては十年に一度の強い勢力と言われた台風二十六号は、高橋川の氾濫を引き起こし、床上・床下浸水合わせて四十九件、土砂崩れが十一件と、大きな被害を本村にもたらしました。私たちは地球規模で気候が変わりつつある現状を踏まえ、今まで予期しなかった自然災害がどこでも起きうることを認識せねばなりません。そのうえで、想定外の有事にも「備えあれば憂いなし」の予防・防災訓練等を住民の皆様が参加・体験できる形で実施してまいります。地域の安全・安心が最優先です。

全国の町村では少子高齢化が進み、深刻な状況が続いています。しかし、先人たちが守ってきた伝統文化の継承や自然環境の保全は私たちが担っていかねばなりません。魅力ある地域社会を構成していくためには、住民と行政が一体となり、主体的・自立的に施策を展開していくことが不可欠であり、それが基礎自治体の発展につながります。美浦村には霞ヶ浦の自然豊かな景観があり、ここに暮らす人々の心を癒し、安らぎを与えてくれています。この環境は全国に誇れるものであると同時に、私たちの心の財産として将来に継承されていかなければなりません。

今後も「地域主権」の確立に向けて村民の皆さま自らが村づくりに参加され、「自分たちの村は、自分たちで創り守る」を念頭に、ともに発展していくよう最大限努力してまいりたいと存じます。村政へのご支援、ご協力を心よりお願い申し上げますと共に、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

